いのちと地域を守る

東京・三宅島からのメッセージ

三宅島（東京都三宅村）の1983年の噴火からことしで30年。ネットワーク三宅島（東京）代表の宮下加奈さんが、中学2年で被災した当時の体験や悩みを振り返り、歌津中の生徒にメッセージを送った。

83年噴火当時、中学生 ―― 宮下 加奈さん ＝ネットワーク三宅島代表＝

みやした・かな 東京都三宅村出身。2000年の噴火に伴い、同年9月に江戸川区の公営住宅に避難。三宅島島民連絡会事務局などを経て、05年の全島避難解除を機にネットワーク三宅島を設立し、噴火体験を中心に各地で講演する。10年4月から減災・復興支援機構専務理事。専門は市民減災学。東京都江戸川区在住。43歳。

島で生まれ育ち、83年、2000年から2度の噴火を経験しました。最初の噴火は中学2年のとき。みなさんと同じ年頃です。約400戸の住宅や学校が溶岩流にのみ込まれました。

わたしの家族は、新築したばかりの家のほか、父母がそれぞれ営んだ理容店とラーメン店を失い、2年間、島内の仮設住宅で暮らしました。

たくさん泣いたらきっと立ち直れる

家や理容店の再建で家族が2重ローンを抱え、生活は180度変わってしまった。本当は島を出て都内の高校に進学したかったけれど、家計のことを考えると「行きたい」とは言いだせず、結局、諦めました。

泣きたいことはいっぱいありました。つらいこともいっぱいありました。でも、わたしは「両親に心配を掛けたくない」と、最後まで気持ちを言えなかった。でも時には泣いていいんだよ。

みんなには、先生や友だちに話をしてほしい。思いっきり悩んで話して、思いっきり泣いたら、翌朝にはきっと立ち直れるから。

被災体験は何ごとにも教えてくれた。命や、もの、人とのつながりの大切さ、ふるさとの素晴らしさなどです。苦しいことがあっても「なんとかなる」って、強く生きることも気付かせてくれました。

2000年6月に噴火し、9月2日から全島避難が始まりました。火山ガスの放出が長引き、帰島が始まったのは4年5カ月後のことでした。

災害の正しい知識伝えて

明るさは地域の宝 家族や友を大切に

約3800人いた島民のうち、戻ったのは7割ほど。残る3割は職場や子ども の進学先などが島外に移り、一戻ることを断念しました。

みんなも進学や就職で地元を離れるかもしれません。ほかの地域に行ったら、周りの人たちに、津波をはじめ、災害についての正しい知識を伝えてほしい。

みんなの笑顔、明るさは、地域の宝です。家族や友だち、先生、地域の人々を大切にして、人生を歩んでください。

街の復興 記録続けよう

東日本大震災で起きた ことを後世にどう伝え、 つないでいくか。大事な 役割は被災 いろんな方法がある。 本や映像、写真など記録 をきちんと残す。被災し ものまでは壊せなかっ た。地域にあった祭りや 料理、文化はみんなで引き継げばお金をかけなくても後世に残せる。そういう文化を伝える活動があってもいい。

地域の文化に目を向け、次代につなぐことで、街がよみがえる。復興のプロセスを記録する、文化を継承するつなぐ。再び被災した時、みんなの取り組みが、地域づくりに役に立つはずだ。

減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎さん

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。

第11回「むすび塾」は16日、仙台市太白区のマンション「ロイヤルシャトー長町」で開催します。

■むすび塾に参加して ―― 宮城・南三陸町歌津中

【避難の途中で】「津波を見たい」という子がいた。無理にでも誘導し、避難所に逃げなければいけなかった。焦らず気持ちを落ち着かせて行動することが大切だ。

＝阿部有月さん（14）

【避難の途中で】お年寄りは声掛けや手助けが必要だった。震災の教訓を忘れないように、日本の全ての地域で避難訓練をしたらいいと思う。

＝及川大貴君（14）

【震災の経験から】生徒は隣り合わせなのだと考えるようになった。津波の恐ろしさは体験者しか分からないので、次の世代に伝えなければいけない。実行することが自分たちの使命だ。

＝佐藤七海さん（14）

【避難所生活から】これからは大人に任せるのではなく、積極的に手伝いたい。教訓を引き継ぐため、将来、自分の子どもたちに震災のことを教える。

＝畠山史也君（14）

【避難所生活から】先生に「できることを考えろ」と言われ、避難所の掃除などをした。手布巾などを自分たちが使うのではなく、お年寄りに貸すべきだった。

＝三浦優君（14）

【避難所生活から】不安そうな人が多かった。もっと声を掛ければよかった。復興に向けて、みんなが支え合い、お互いを思いやる気持ちが大切だと思う。

＝三浦悠君（14）